

児童氏名

行 動 の 記 録															
項 目	学 年	1	2	3	4	5	6	項 目	学 年	1	2	3	4	5	6
基本的な生活習慣								思いやり・協力							
健康・体力の向上								生命尊重・自然愛護							
自主・自律								勤労・奉仕							
責任感								正・公平							
創意工夫								共心・公德心							

各項目の趣旨に照らして十分満足できる状況にあると判断される場合に、○印を記入する。

総合所見及び指導上参考となる諸事項

第1学年	<p>「総合所見及び指導上参考となる諸事項」については、児童の成長の状況を総合的にとらえるため、以下の事項等を文章で記述する。</p> <p>①各教科及び総合的な学習の時間の学習に関する所見 ②特別活動に関する事実及び所見 ③行動に関する所見 ④児童の特徴・特技、学校内外におけるボランティア活動など社会奉仕体験活動、表彰を受けた行為や活動、学力について標準化された検査の結果等指導上参考となる諸事項 ⑤児童の成長の状況にかかわる総合的な所見</p> <p>記入に際しては、児童の優れている点や長所、進歩の状況などを取り上げるよう留意する。ただし、児童の努力を要する点などについても、その後の指導において特に配慮を要するものがあれば記入する。また、学級・学年など集団の中での相対的な位置付けに関する情報も、必要に応じ記入する。</p>
------	---

第2学年	<p>特別支援学級に在籍している児童については、以下を参考にして記入する。</p> <p>①準ずる教育課程を編成している場合、指導要録の指導に関する記録は、通常の学級と同様とする。自立活動の記録は、指導に関する記録の裏面「総合所見及び指導上参考となる諸事項」に記載する。</p> <p>②準ずる各教科と知的障害特別支援学校の各教科の両方で教育課程を編成している場合、様式は通常の学級用及び特別支援学校（知的障害）用の2枚を使う。この際、自立活動の記録は、知的障害特別支援学校の様式に記録する。なお、教科の評価はどちらか一方の様式で行う。</p> <p>（参考1）準ずる教育課程を編成している場合で、視覚・聴覚・肢体不自由・病弱特別支援学校用の指導要録の様式を活用している場合は、自立活動の記録は指導に関する記録の裏面「自立活動の記録」の欄に記入する。</p> <p>（参考2）知的障害者である児童に対する教育を行う特別支援学校の各教科の目標及び内容に替えた場合は、知的障害特別支援学校の指導要録の指導に関する記録に具体的な指導内容及び成果等を文章で記述する。自立活動の記録については、「各教科・特別活動・自立活動の記録」の所定の欄に記録する。</p>
------	---

第3学年	<p>特別支援学級に在籍している児童について、準ずる教育課程を編成して、各教科の目標及び内容を下学年の各教科の目標及び内容の全部または一部によって替えた場合、適用した学年の各教科の目標に準拠して評価を行う。指導要録の「各教科の学習の記録」については、通常の学級と同様に観点別評価及び評定を記述した上で、「総合所見及び指導上参考となる諸事項」欄に各教科の目標・内容を下学年に替えて指導している事実を記述する。</p>
	<p>通級による指導を受けている児童については、通級による指導を受けた学校名、通級による指導の授業時数、指導期間、指導の内容や結果等を記入する。通級による指導の対象となっていない児童で、教育上特別な支援を必要とする場合については、必要に応じ、効果があったと考えられる指導方法や配慮事項を記入する。</p>

出 欠 の 記 録						
区分	授業日数	出席停止・ 引等の日数	出席しなければ ならない日数	欠席日数	出席日数	備 考
1						(略)
2	176	0	176	5	171	オンラインを活用した特例の授業19
3	195	10	185	7	178	オンラインを活用した特例の授業12
4						(略)

非常時にやむを得ず学校に登校できない児童については、登校できなかった日数は「欠席日数」ではなく、「出席停止」として記録する。

別記に記載されたオンラインを活用した特例の授業の参加日数を指導要録の「出欠の記録」の「備考」に記載する。